

令和元年6月17日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16711

研究課題名(和文) ラジオ放送の文学番組からみるオーストリア・ファシズムの文化政策とその影響

研究課題名(英文) Cultural Policies of Austrofascism and their Influence on Radio Broadcasted Literature Programs in Vienna

研究代表者

早川 文人 (Hayakawa, Fumito)

金沢大学・外国語教育系・准教授

研究者番号：30724398

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1930年代ウィーンのラジオ放送の文学番組をラジオ雑誌や新聞等を手がかりに、オーストリア・ファシズム(1934-1938)期の文化政策とその影響の分析と考察を試みた。研究期間内においては、研究課題に関する文献収集と整理という基礎研究を進めるとともに、文学番組で扱われた個々の作品および当該時代を生きた作家ジョルジュ・サイコ(1892-1962)の作品を分析した。本課題の研究と本研究を踏まえた研究成果の公表は、研究過程において本研究のさらなる展開が見込まれたので最終年度前年度申請をした結果、H30年度から新たに採択された基盤研究(C)において継続して取り組む。

研究成果の学術的意義や社会的意義

オーストリア・ファシズムに関する研究は、概して進捗状況が思わしくなく、本研究は文化・文学研究の立場から研究を進めることで、そのような現状に一石を投じ、ファシズム文化研究全体の推進に貢献するものである。当該政権下のラジオ放送の文学番組の編成を調査し、政府の文化政策の反映を検証する本研究は、文化政策の実際的な影響あるいは独伊など他のファシズム国家との類似や相違点を示すことによって、既存のメディア文化史、文学研究の記述の補完と更新を目指す点においても学術的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to investigate the cultural policies of Austrofascism (1934-1938) and their influence on authors and literature programs broadcasted by radio in Vienna by analyzing radio magazines and newspapers of the 1930s.

The project's first stage focused on exploring relevant research documents concerned with the ideology of Austrofascism. In the second stage, an analysis was conducted of the literary works featured in radio programs of the 1930s in Vienna, which centered on cultural context and the writings of Viennese authors, especially George Saiko (1892-1962), associated with Austrofascism. The project's principle investigator is continuing to conduct research and publish articles focusing on the cultural policies of Austrofascism in a current on-going project funded by a 2018-2022 Grant-in-Aid for Scientific Research (C).

研究分野：ドイツ文学

キーワード：ウィーン ラジオ放送 RAVAG オーストリア・ファシズム 文化政策 放送劇 ジョルジュ・サイコ  
文学番組

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

(1) オーストリア・ファシズム(独語 Austrofashismus)と呼ばれる E・ドルフス( Engelbert Dolfuß, 1892-1934) と K・シュシュニク( Kurt Schuschnigg, 1897-1977) による独裁政権が 1934 年から 1938 年までオーストリアに成立していた。これまでの国内外のファシズム研究は、独伊のファシズム政権をめぐる研究を中心に各国別に発展してきたが、1930 年代のファシズム諸国家の文化政策の全体像を解明するためには、Emmerich Tálos や Klaus Amann といった研究者が先鞭をつけてきたオーストリア・ファシズムの政治文化研究の重要性も見直される必要がある。

(2) 1924 年にオーストリア・ウィーンで開局した「ラジオ通信株式会社」(Radio Verkehrs AG, 1924-1938)、通称 RAVAG は設立当初から政府の援助を受けた半官半民の放送局であった。この放送局はファシズム政権下では政府の強い影響下にあったとされているが、研究代表者は、検閲がナチス・ドイツに比べそれほど厳しく行われていなかったことに気がついた。例えば、ヘルマン・ブロッホ(Hermann Broch, 1886-1951)にみられたように、ナチス・ドイツに対する言及の多さに比べ、当時オーストリアにいた多くの知識人は自国政府に対する言及や批判が極端に少ない点を認識したことが、本研究に着手した契機となった。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の全体構想は、独伊を中心に各国史の枠組において発展してきたファシズム文化史研究を補完・発展させるために、独伊関係の焦点としてのオーストリアという視点から、オーストリア・ファシズム政権下の社会・文化状況を集中的に分析し、それを手がかりに、1930 年代のファシズム諸国家の文化政策の全体像の解明を目指すものである。

(2) 研究期間内の具体的な目的は、オーストリア・ファシズム政権下のラジオ放送の文学番組の編成とその番組で朗読されたテキストの分析を通じて、当該時代の文化政策の実際の反映を考察するとともに、その影響下にあった知識人の態度の検証にある。

## 3. 研究の方法

### (1) RAVAG 設立背景と番組編成の調査分析

オーストリア・ファシズム政権下のラジオ放送局の文学番組に、どのような作家が出演し、どのような作品を朗読していたのかを明らかにする。本研究は、RAVAG が 1924 年 10 月 19 日から発行した週刊誌『ラジオ・ウィーン』(Radio Wien, 1924-1953)の分析を行い、とくに 1934 年から 1938 年の間にオーストリア国内で制作・放送された番組を抽出し集中的に分析する。さらに文学番組の出演者と朗読されたテキストに注目し、リストを作成する。

### (2) 時代背景と文化政策の理解

オーストリア・ファシズムの時代と文化政策の内実はどのようなものであったのか、またその影響を明らかにする。テキストに現れた表象を読み解き、権力・抑圧に対する作家の批判的態度を検証する。

## 4. 研究成果

(1) 本研究課題の実施期間中、本研究を推進するうえで根幹となるオーストリア・ウィーンでの資料調査・収集を集中的に行った。その間の渡境調査では、ウィーンの放送資料館の協力を得て、日本国内では入手困難な基礎的資料を効果的に収集できた点は大きな成果であった。1938 年のナチス・ドイツによる《アンシュルス》以前の RAVAG の「年次報告書」をはじめ、文学番組の現存している台本等の所在の特定および複写、複数のラジオ雑誌、例えば、『ラジオ・ウィーン』『ラジオ・ヴェルト』(Radio Welt, 1924-1938)をほぼ網羅的に収集でき、本研究課題を推進するうえでの基盤を整えることができた。上記に挙げたラジオ雑誌以外にも、多くのラジオ雑誌群の存在に気づき、かつ収集・調査できた点は、今後の研究推進と展開をもたらす貴重な予備資料となった。これらの資料については、オーストリアの政治の転換期となった 1927 年から、オーストリア・ファシズムの時代が終わりを告げる《アンシュルス》までの期間を中心に整理し読解を進めた。

(2) (1)の作業を進める過程において、第二次大戦前のラジオの文学番組を考察するうえで、またオーストリア・ファシズムの文化政策の影響を解明するうえでも、RAVAG の文学部門長ハンス・ニュヒテルン(Hans Nüchtern, 1896-1962)の存在の重要性に気がついた点も本研究課題の一つの成果であった。文学作品の価値基準に基づき編まれた文学史において、ニュヒテルンの名はこれまで登場することはなかった。しかし、文学番組の編成・演出するさいに多くの文学者と交流していただけでなく、彼自身も詩集や小説を出版し、オーストリア文壇に影響力を持つ人物であった。ニュヒテルンの作品と彼が手がけた演出の分析および生を追うことで、RAVAG と文化政策との影響関係を探る手がかりとし、学会発表、で報告するとともに、雑誌論文 においては、RAVAG 開局当初の状況およびニュヒテルンが初めて演出したラジオ劇『農夫と死』について分析した。

(3) 統計データ等のみからは把握し難い当該時代の社会情勢や社会の雰囲気をより理解するために、ファシズム政権下のオーストリアを描いたジョルジュ・ザイコ(George Saiko, 1892-1962)の小説『葦のなかの男』(Der Mann im Schilf, 1955)を分析し、考察を行った。ザイコの小説では、ファシズム政権下のオーストリアでは、強力な政権による圧政というよりも、複数のイデオロギーが交錯し衝突するさいに、社会のさまざまな階層の人々の間で生じる暴力行為が、心理学的知見を背景に多面的に描かれるとともに、精緻に分析されていた点が特徴的であった。この成果は、日本独文学会のシンポジウムで報告(学会発表)し、その報告内容を加筆修正し、雑誌論文にまとめた。

(4) 本研究課題を推進していく過程において、ニュヒテルンの調査と文化活動機関「新生活」の調査の必要性が明らかになった。そこで2017年度に本研究課題をさらに深化・展開させた研究計画を立案し、最終年度前年度申請を行った。結果、2018年度からは基盤研究(C)「ウィーン・ラジオ放送の文学番組とオーストリア・ファシズムの文化政策」において、本研究課題を継続して取り組んでおり、その研究成果については学会発表もしくは雑誌論文で公表していく。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計2件)

早川文人, ウィーン・ラジオ劇の誕生 ラヴァク黎明期とハンス・ニュヒテルン, 上智大学ドイツ文学論集, 査読有, 55巻, 2018年, 187-213頁。

早川文人, ジョルジュ・ザイコからみた戦後オーストリア 小説『葦のなかの男』を手がかりに, ウィーン1945-1966 オーストリア文学の「悪霊」たち, 日本独文学会研究叢書, 査読無, 112巻, 2016年, 38-52頁。

### 〔学会発表〕(計4件)

早川文人, ハンス・ニュヒテルンと RAVAG 大戦間期ウィーンのラジオと文学を考える手がかりとして, 日本独文学会北陸支部研究発表会(金沢大学サテライトプラザ), 2018年11月23日。

早川文人, 戦間期ウィーンにおけるラジオ文化の発展とその背景, 日本独文学会北陸支部研究発表会(金沢大学サテライトプラザ), 2017年11月18日。

早川文人, 希望の播種, あるいは絶望のポストリユード 戦間期ウィーンにおけるラジオと文学, 上智大学ドイツ文学会研究発表会(上智大学), 2017年7月22日(招待講演)。

早川文人, ジョルジュ・ザイコからみた戦後オーストリア 1950年以降の小説とエッセイを手がかりに, シンポジウム: ウィーン1945-1966 オーストリア文学の「悪霊」たち, 2015年度日本独文学会春季研究発表会(武蔵大学), 2015年5月30日。

### 〔図書〕(計 件)

### 〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

### 〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。